

原輝美と諏訪の美術

— 洋画開化の音がする —



原輝美 《製糸工女》 1913(大正2年)

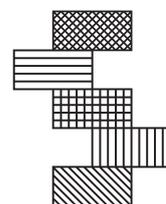
TERUMI HARA

2025 7/12^土 ~ 9/21^日

- 開館時間：午前9時~午後5時（入館は午後4時30分まで）
- 休館日：月曜日、祝日の翌日（7/14、22、28、8/4、12、18、25、9/1、8、16）
- 入館料：一般（高校生以上）310円、子ども（小中学生）150円
一般団体（20名以上）200円、子ども団体（20名以上）100円
障がい者（介助者1名まで同額）150円 ※諏訪地域の小中学生は無料。

主催：諏訪市美術館

後援：信濃毎日新聞社、長野日报社、市民新聞グループ、SBC 信越放送、NBS 長野放送、TSB テレビ信州、
abn 長野朝日放送、エルシーブイ株式会社、諏訪美術会、諏訪市美術会、信州美術会



諏訪市美術館
SUWA CITY MUSEUM OF ART

TERUMI HARA

原輝美と諏訪の美術

— 洋画開化の音がする —

令和7年7月12日(土)～9月21日(日)

明治維新以降、西洋文化や美術の受容により、日本では洋画家が急速に増えていきましたが、諏訪地域では明治末になってようやく学校で洋画が授業に取り入れられるようになりました。そんな中、諏訪市湖南出身の原輝美(1884-1966)は1902(明治35)年に単身アメリカへと渡り、諏訪地域で先駆けて海外で本格的に絵画について学びました。

原の留学は元々医学を学ぶことを目的としたものでしたが、アメリカで過ごすうちに医者ではなく画家になることを決意。学校を中退し、美術学校へと入学します。アメリカ・サンフランシスコやニューヨークを中心に、途中留学を行ったイギリス・ロンドンを含め、1912(大正元)年に帰国するまでのおよそ10年間、海外で絵画について学びました。

帰国した後、今度はヨーロッパで美術を学ぶことを夢見た原でしたが、実家が営む製糸工場の経営不振などの影響もあり、渡航を断念。その後亡くなるまで再び海外へ行くことは叶いませんでした。帰国後は父から継いだ実家の製糸業を営む傍ら、趣味として絵画制作を行い、晩年は雅号を白川と称して俳句を嗜んだり、古文書の研究や日本画の制作を行っていました。

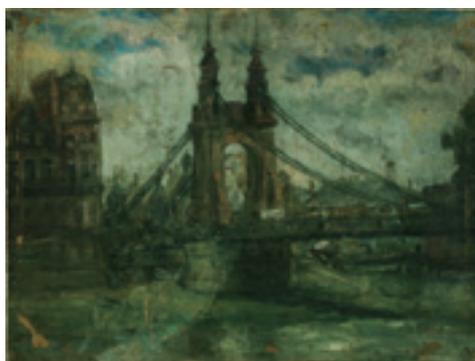
本展では、原の生家に残されていた留学時代の日記を読み解きながら、留学時代に描いたとされる作品とともに、原の活動最盛期ともいえるアメリカ・イギリスでの活動を紹介します。

また、原と同じく海外で絵画を学んだ作家や、原の活動以降に諏訪地域で活躍していた作家の作品について合わせて紹介します。

原は作品を制作する際、自宅にある8畳一間のアトリエで、誰一人として室内に入れず、独りしずかに作品に向かいあっていたと言います。諏訪の洋画の先駆者でありながら、独自の制作活動を進めた寡黙な画家・原輝美の歩んだ道のりと、諏訪地域における洋画家たちの軌跡をぜひご覧ください。



原輝美《タイトル不詳》1916(大正5)年



原輝美《タイトル不詳》制作年不詳



原輝美《裸婦(習作)》1910(明治43)年



原輝美(1884-1966)

- 1884 諏訪市湖南に生まれる
- 1902 医学を学ぶため単身渡米
- 1905 画家になるため美術学校に入学
- 1907 イギリスに渡り、翌年にアメリカへ戻る
- 1912 帰国
- 1913 第7回文展にて《製糸工女》が入選
- 1966 逝去

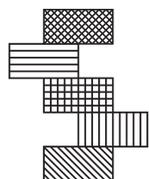
展覧会イベント

■トークイベント「家族から見た原輝美」

日時：7月26日(土) 10:00~11:00
ゲスト：原和子様(原輝美ご息女)
会場：諏訪市美術館 2階展示室
定員、申込：なし
参加料：入館料のみ
対象：どなたでも

■学芸員によるギャラリートーク

日時：9月6日(土) 14:00~14:30
会場：諏訪市美術館
定員、申込：なし
参加料：入館料のみ
対象：どなたでも



諏訪市美術館
SUWA CITY MUSEUM OF ART



諏訪市美術館
ホームページ



諏訪市美術館
インスタグラム

〒392-0027 諏訪市湖岸通り 4-1-14 TEL・FAX：0266-52-1217
<https://www.city.suwa.lg.jp/site/museum/>
JR中央線上諏訪駅より徒歩7分 / 中央自動車道諏訪ICより車15分

